禮翁百話（八十七）

正直は田舎漢の特性に非ず

福澤諭吉

田舎の人は律義正直にして小兒の如し眞に愛す可しとは世人の常に言ふ所にして實際に於ても亦その然るを見る可しと雖も退て事の裏面を視察すれば其律義正直は唯田舎に生活する間のみとして之を都會繁雜の地に出せば種々無量の事情に摩擦せられて次第〳〵に横着者と爲り時として奇計を逞らし奇惡を働く者は却て田舎漢に多しと云ふ故に田舎漢の善は本來特種の善に非ず田舎住居と名くる一種の情勢に制せられて善なるのみ深く感心するに足らざる其事實は人間が小兒の時のみ無邪氣にして年と共に次第に煩惱を催ぼすに異なならず石川五右衛門も二三歳の時には必ず純正無邪氣の小兒たりしや推察に違はざる可し拙田舎の人が何故に律義正直なるやと尋るに第一その地方の生活簡略質素にして人慾を誘ふもの少なきと同時に其社會の範圍甚だ狹くして一百一行の微も忽ち鄕黨の知る所と爲り誰れは何某の金を何國借用して未だ返さずと云ひ、何某は何處の縄手にて財布を拾ふたる樣子なりと云ひ、彼の男は隣の畑の芋を盗みたり、隣村の林を盗伐したり、夜前酒を飲みたり、今朝團子を食ふたり、彼の家の夫婦喧嘩は云々の次第にして寺の和尚か斯く仲裁したりなど其報告の速にして明細なるは之を掌に指すが如し而して善を善とし惡を惡とするは人生自然の本心にして苟も人の不埒を許さず四方八方恰も警察の如くなるが故に期る社會に居て惡事を働かんとすれば忽ち人に見捨てられて身を置くの餘地なし是即ち田舎漢の割合に正直なる所以なれども此正直者が一旦都會に出れば千門萬戸見ず知らずの他人にして其耳目を遮るゝみと易きのみならず次第に住慣るゝに從て次第に驕力を增大し假令ひ世間の指す所と爲るも所謂旅の恥はかきすての度胸を定めて意外の奇惡を慣じながら恬として恥ぢざるもの多し我輩は之を評して田舎漢が都下の惡風に誘惑せられたりとのみ云はずして寧ろ彼等の生來を認はしたる本色なりとする者なり左れば都鄙共に人の善惡は大抵同一樣にして之を田舎に置けば善なりと定まりたる上は人間社會を概して田舎の如く又小兒の如くにしては如何との說あり曾に一說のみならず古來儒教家の熱望する所にして何かの議論の端には田舎の素朴正直を稱揚し小兒の無邪氣を說て大人の手本に持出せども如何せん文明世界の經營は田舎漢に依賴す可らず小兒に任す可らず儒教論者も每度口に論じて實驗に當惑する所のものなれば我輩は更らに一歩を進め人情の素朴無邪氣なぎ云ふ消極の德論を云はずして寧ろ彼等の生來を認はしたる本色なりとする者なり左れば都鄙共に人の善惡は大抵同一樣にして之を田舎に置けば善なりと定まりたる上は人間社會を概して田舎の如く又小兒の如くにしては如何との說あり曾に一說のみならず古來儒教家の熱望する所にして何かの議論の端には田舎の素朴正直を稱揚し小兒の無邪氣を說て大人の手本に持出せども如何せん文明世界の經營は田舎漢に依賴す可らず小兒に任す可らず儒教論者も每度口に論じて實驗に當惑する所のものなれば我輩は更らに一歩を進め人情の素朴無邪氣なぎ云ふ消極の德論を云はずして

[illegible]

を洩らさず人間の居家處世一言一行の微も風教に妨なき限りは之を報ずして遠近の耳目に觸れしめ其察々の明恰も片田舎の村民が村中の出來事を知るが如くならしむるは正しく醜惡運動の餘地を縮小するの法にして必ず有力なる可し目下不完全なる交通法にても既に多少の効驗なきに非ず天下後世みれを十倍し百倍するの日には單に交通の一機關のみにても大に人の造惡心を止むるに足る可しと敢て我輩の信ずる所なり

社說

佛教の革新

東本願寺に對して不平の聲喧しきは每度記する所なれども是れは單に同宗内の事として餘所に見る可らず近來は各宗僧侶の品行も次第に妙ならずして自から信者の不平を招くとなれば或は眞宗同樣その不平の破裂なきを期す可らず顧みて俗界の風光を見るに國民の品行決して高からず不體裁も少なからずと雖も改良進歩の途中に在るは明白にして時として古風を凌ぐものなきに非ず例へば男女の關係にても在昔は恰も主從の如くにして一夫多妻も女子は唯默々するのみにて男子は却て多妻を榮とするはどの次第なりしに今は則ち然らず寧ろ男子の不德として咎むるもの多し父子の關係も同樣にして以前は父母の權力に制限なく所生兒は唯是れ一種の私有物なりしに今は其思想一變して子に對しても相應の義務あるを認めざるはなし其他戶外公共の事に付ても人民一致して慈善義捐の美事少からず特に戰爭のとき敵味方の差別なく總ての負傷兵を救護するが如きは仁義の發揮著しきものにして古人の夢にも思はざる所なり或は國民奉公心の消長に付き世に歎息するものの少なからざれども是れも亦悲觀者流の夢想に過ぎざる其一證は日清戰爭の際、士卒は皆町人百姓の子弟のみなればイザと云ふ場合に臆怯の振舞あるやも知る可らずと爲て將官中には心配するもの多かりし由なるに實際は全く豫想に反して忠勇義烈、國あるを知て家あるを知らず砲彈半身を粉碎して氣息奄々たれども尚は其職務を去らざる水兵あり銃丸胸を貫けども依然として進軍の喇叭を吹く陸兵あり幾多の美談を作りしは中外人の等しく感嘆して止まざる所なり國民の士氣も亦進歩せるを見る可し然るに獨り僧侶の品行のみ次第に墮落して今は殆んど極度に達したるみそ氣の毒なれ宗規に於て肉食妻帶す可らざる清僧の身にてありながら俗界の政府より許可を得たりとて公然妻妾を蓄へ酒肉を飲食して恥ぢざるのみか竊に寺の寶物を賣却して花柳の巷に遊るゝもの